

# あがつま



『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

(ヨハネによる福音書15章5節)

♪ 賛美歌を歌おう②〇  
『この世にあかしたてて』  
讃美歌第二編(4番)  
毎年十一月一日は、カトリックの典礼暦で「諸聖人の日」(All Saints' Day)と定められ、全ての聖人と殉教者を記念して礼拝が守られます。カトリックと英国国教会(聖公会)ではこの日に、盛装した聖職者たちが行列を作った町の中を練り歩いたり、礼拝堂の中を祭壇まで行進します。この賛美歌はその諸聖人の日の行列の歌【For All the Saints】として書かれました。  
原作者は以前にも『とぎせる門を』2020年1月号掲載)の原作者として取り上げた、ウィリアム・W・ハウ(1823-97)です。彼は約六〇編の賛美歌詞を残していますが、『この世にあか

したてて』は、その中でも最も知られている賛美歌で、シネ・ノミネ ラテン語で「名前がない」の意)という旋律と組み合わせられ「二〇世紀で最高の賛美歌の一つ」と評されています。  
プロテスタントの多くの教会にとって「聖人」は特別視される存在ではなく、あくまで一信徒にすぎません。神に召された信徒はだれもが「聖徒」なのです。  
ちなみに、日本キリスト教団では、キリストにあって死んだすべての人たちを記念する日として、十一月の第一聖日を「聖徒の日」と定められ、例年、吾妻教会でもこの日に「永眠者記念礼拝」が守られていました。今年も九月二七日(日)に「永眠者記念礼拝」が守られました。

稲垣真実)